

ウェルビーイング創生に向けた 日立製作所 研究開発グループの取り組み

2025/2/19

株式会社 日立製作所 研究開発グループ
ウェルビーイングプロジェクト サブリーダー

佐藤嘉則

過去中計の構造改革成果を活かし、オーガニックな成長力を示して企業価値を向上する



売上成長
(FY2021-FY2024 CAGR)

Adj. EBITA^{*1}

ROIC

EPS成長^{*2}
(FY2021-FY2024 CAGR)

コアFCF^{*3}
(3年累計)

中計目標
3セクター

5%-7%

12%

10%

10%-14%

1.2兆円
株主還元 0.8-0.9兆円

^{*1} 調整後営業利益から買収に伴う無形資産等の償却費を足し戻し、持分法損益を加算して算出した指標

^{*2} 株式分割(2024年7月1日効力発生予定 10%-14% 1.2兆円)前の株式数で計算

^{*3} コアFCF = 営業CF - 設備投資

ウェルビーイングを実現する3つの価値領域を設定して研究開発を推進

日立の研究開発がフォーカスしている価値領域

「選択肢があり自己決定できている感覚」の増減が主観的ウェルビーイングの増減と強い相関(相関係数0.71)がある (Inglehart et. al., 2008)*1

多様で個別な「幸福」を実現するための価値

選択多様性

フォーカスする価値領域

健康

安心・安全

「幸福」の基礎条件を満たすための価値

Urban Well-beingの4要素

— Well-being of **Individuals** —

Quality of Lifeの向上

— Well-being of **Communities** —

近隣コミュニティの価値向上

— Well-being of **Networks** —

快適かつレジリエントな交通ネットワークの実現

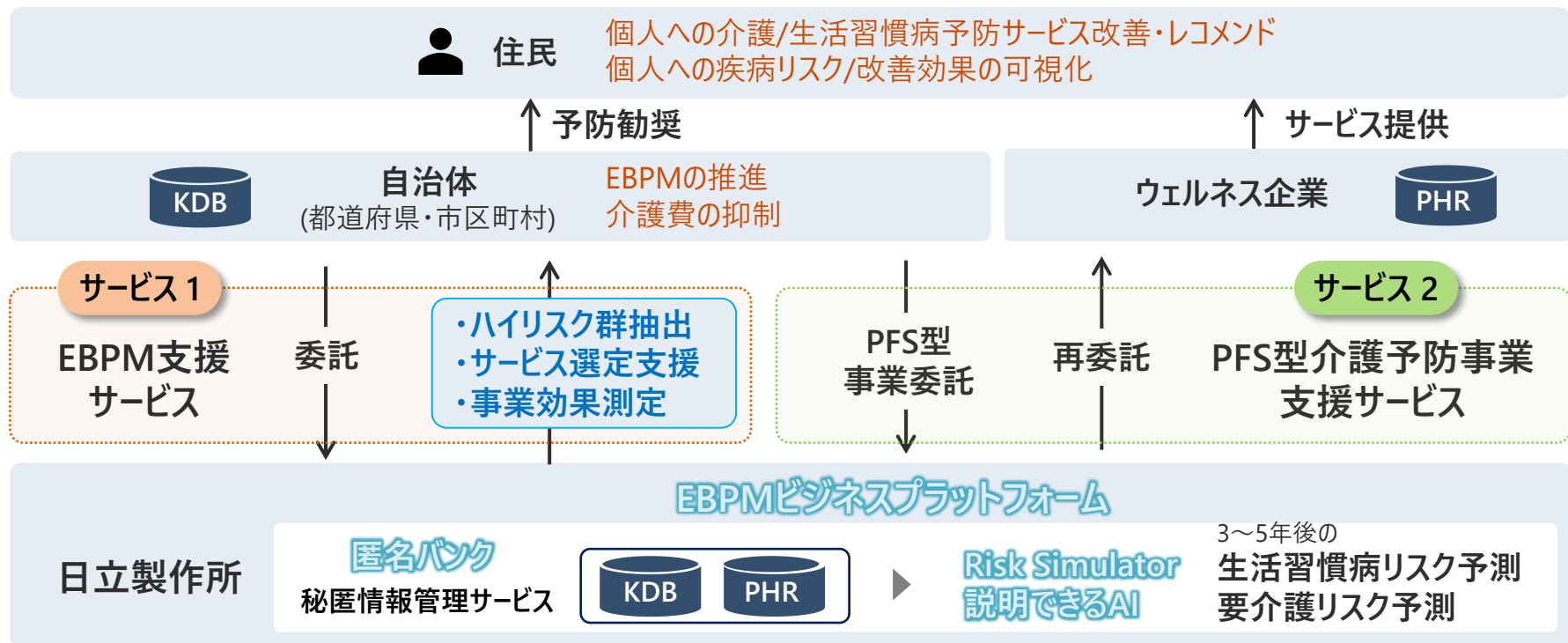
— Well-being of **Environments** —

環境負荷の低減、気候変動への対応

*1: Inglehart, R., Foa, R., Peterson, C. & Welzel, C. (2008). "Development, Freedom and Rising Happiness: A Global Perspective 1981-2006."

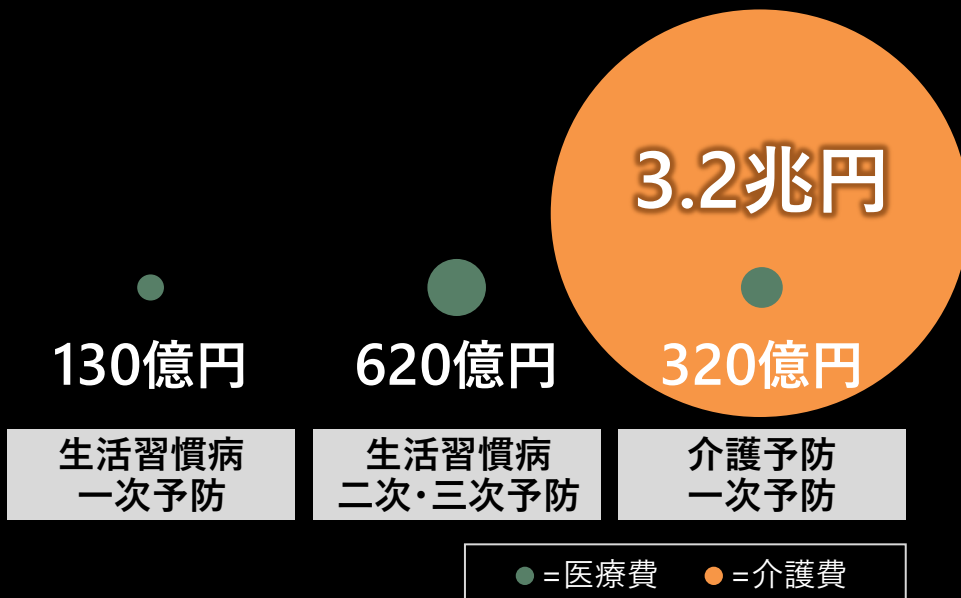
【事例】エビデンスに基づく介護予防：EBPMビジネスプラットフォーム

- EBPM支援サービス：個人情報秘匿しつつKDBとPHRから、AIで介護予防事業効果を測定
- PFS型介護予防事業支援サービス：事業効果測定とあわせて成果連動型予防サービスを提供



介護予防の潜在的インパクトは大きい、予防参加率向上には行政リソース不足対策が不可欠

予防による介護費/医療費抑制の期待額(2034年)



介護費/医療費の見通し

推計では2034年の介護費14.5兆円、医療費21.5兆円

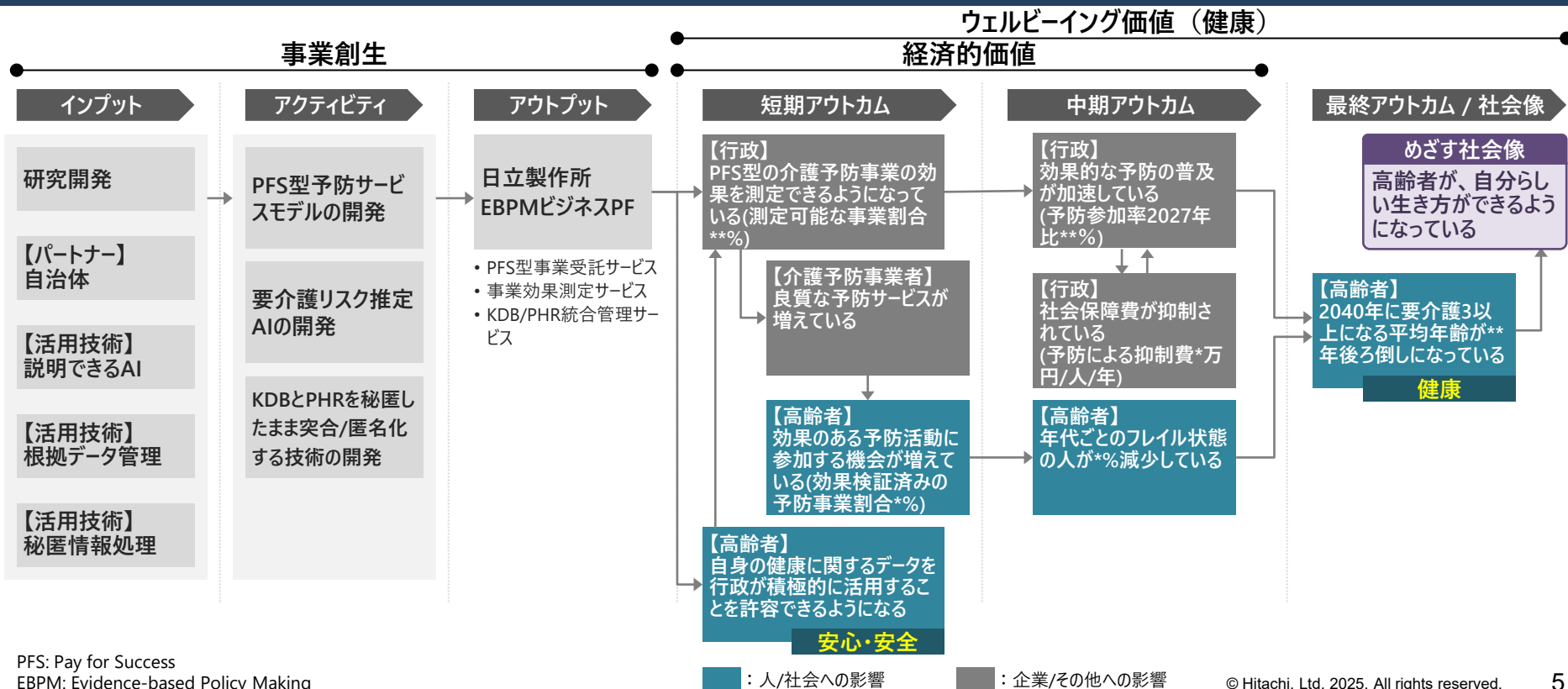
介護予防による抑制効果

適切なフレイル/認知症予防が日本全国で実施された場合、介護費3.2兆円/年(−22%)、医療費320億円/年(−0.1%)抑制

生活習慣病予防による抑制効果

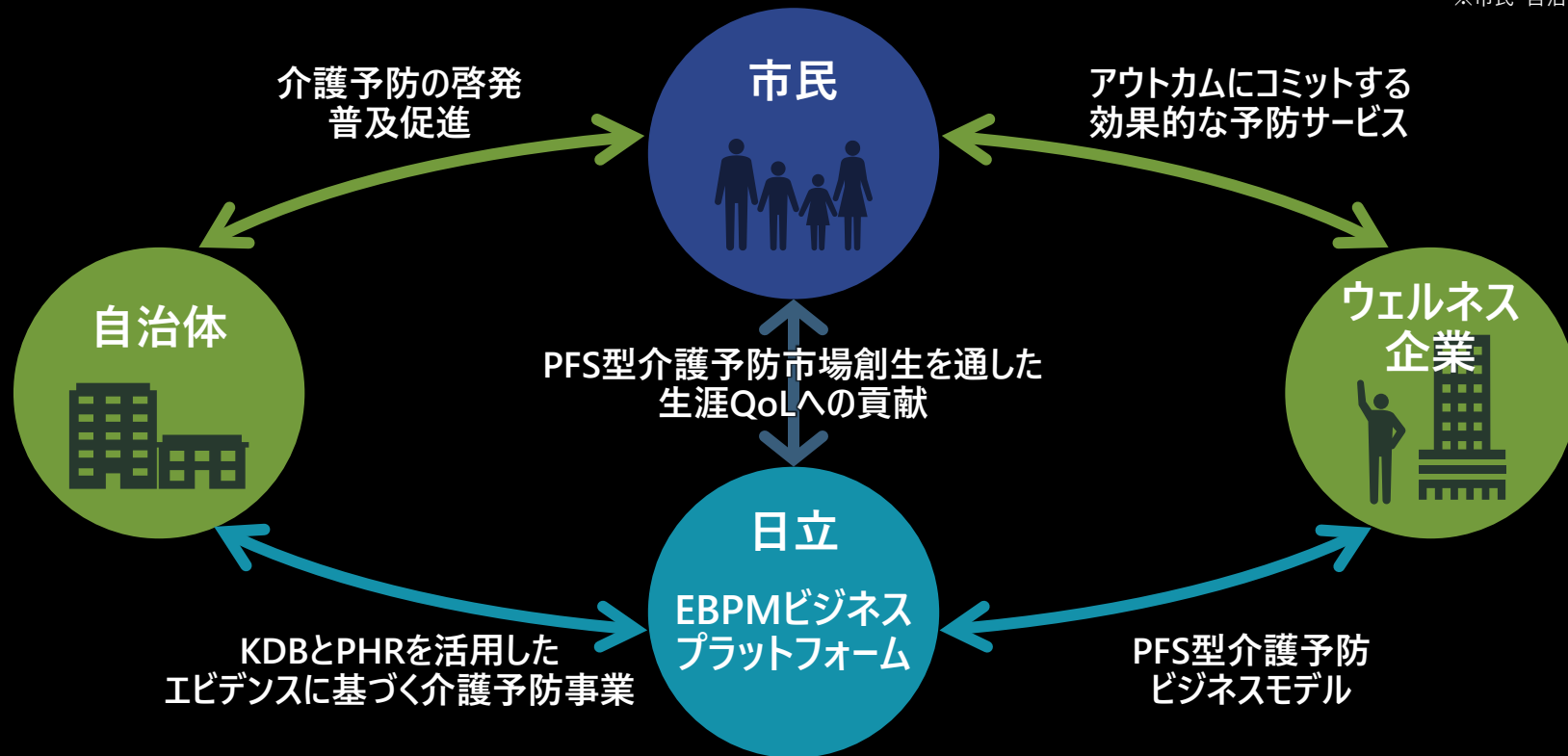
幼少時からの教育・啓発を含む長期の一次予防、特定保健指導を通した二次・三次予防により、医療費750億円(−0.3%)抑制

経済的価値の実現を通じてウェルビーイング価値を創生するロジックとKPIを設定



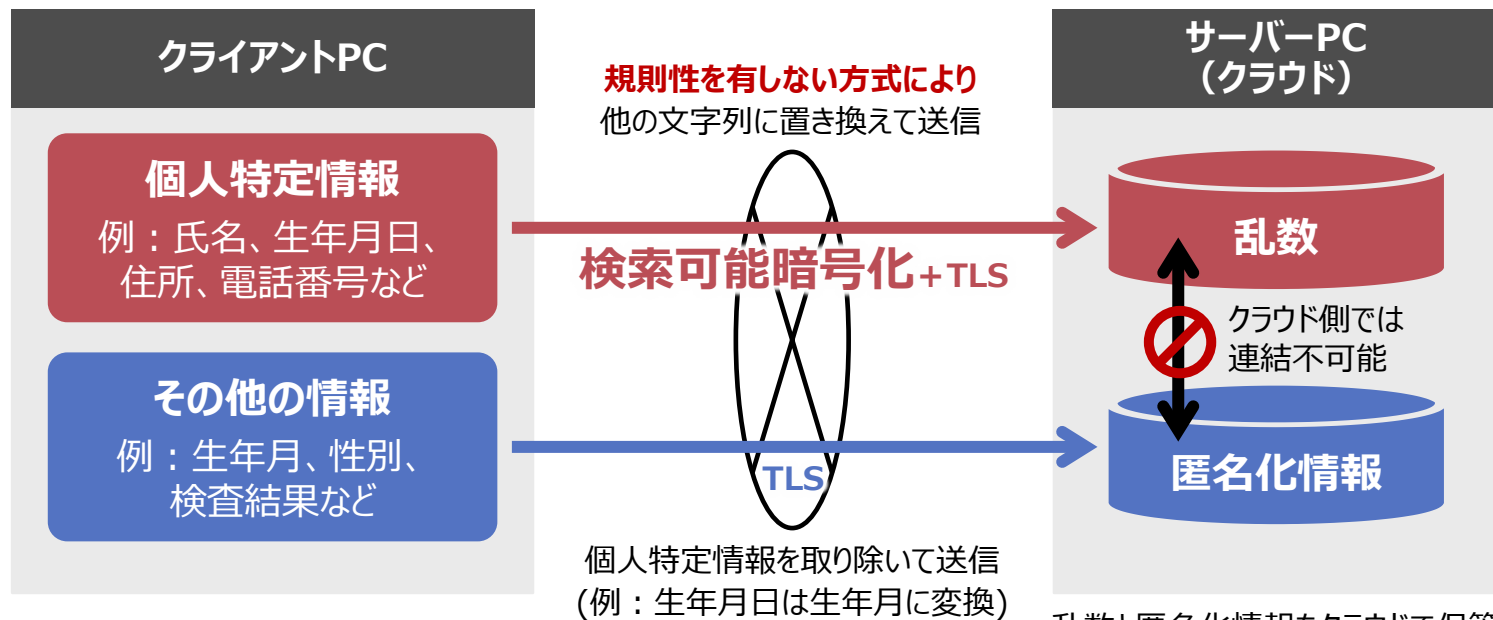
良質な民間介護予防サービスを行政が積極的に活用可能とするエコシステムをPFで実現

※市民・自治体・民間企業



秘匿情報管理サービス「匿名バンク」

- 個人情報、氏名、生年月日、マイナンバーなどの「個人特定情報」と「匿名化情報」に分離保管
- 「個人特定情報」は検索可能暗号化（確率暗号化、乱数化）して情報をお預かり
- 「匿名化情報」は個人を特定できない形に仮名化して情報をお預かり



TLS : Transport Layer Security



Hitachi Social Innovation is
POWERING GOOD